

## 「妊婦の方への乳がん検診」に力を入れています！

妊娠関連乳がん（PABC と略されます）：妊娠中または出産後 1 年以内に診断される乳がんのことを言います。

### **1. 疫学：日本で増加傾向にある課題**

世界的にも日本においても、PABC はますます増加する課題となる可能性があります。さらに罹患率は 30 代後半から急激に上昇し始め、40 歳から 60 歳の間ピークを迎えることが示されています。この 30 歳代の期間は、女性の生殖可能年齢と大きく重なります。

PABC そのものが、特に悪性度が高いわけではありません。妊娠の経過とともに乳腺組織が発達して通常の状態とは大きく変化するため、正確な診断が難しいことがあります。よって **診断が極端に遅れることが多々あり、これが予後不良の一因になっている感は否めない**とされています。当院では、妊娠、授乳中の女性に対して資格を持った医師や助産師・看護スタッフと連携し、乳房の変化を観察することの重要性を教育、啓発し、できるだけ早い段階で乳癌を診断できるように努めることを目標に取り組んでいます。

（乳癌診療ガイドライン 2022 年版より一部改変）

### **2. 検診方法：乳房超音波判定医による検診**

当院では、妊娠期・授乳期も、「乳房超音波検査」による乳がん検診を受けることが出来ます。ただし非妊娠時よりも、正確な診断が難しいことがあります。

この状態が元通りになるには、卒乳してから 3～6 ヶ月かかると言われています。

当院では妊娠が判明しましたら、**自覚症状がなくても早い時期に乳房超音波検査で異常がないことを確認していただくことをお勧め致します。**

時期としては、妊娠初期（妊娠中 16 週まで）に検診を受けることがお勧めです。

- \* 妊婦健診の際に、予約なしでも受付で同日に乳がん検診もお受け頂けます。
- \* 他施設で妊婦健診を受けている妊婦の方も、事前予約にて乳がん検診が出来ます。
- \* 事前に Web またはお電話にて予約をお勧めします。
- \* 妊娠 16 週未満を対象と致します。
- \* 検診料は、4,500 円となります。